区政のこえをきく

一般質問 要旨

不断の行政改革と花を生かした観光振興を問う

鳥飼秀夫（自民党）

不断の行政改革について問う

問 地方自治体にとって、行政需要が一層増大していく中、税収面は減少の一途をたどり、人口減少も相まって地域活力が弱体化することに危機感を持つ。こうした中、不要不急の事業廃止、休止、事業の見直しなど、行政改革を進め、必要となる財源を確保し健全化を維持していく取り組みが急務である。区として、行政改革の推進に対し方針を打ち出し、取り組みを進めるべきと考えるが見解を問う。

答 企業会計に近い形で財政状況を把握するため、東京都方式に基づいた会計制度の導入と行政評価との連動を検討している。また、幸福実感指標を政策・施策の評価に導入した。今後も事務事業の評価を行い区政運営の効率化を図り、生み出された財源を必要なサービスに活用し、質の高い区民サービスを実現させる。

花を生かした観光振興を問う

問 東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり、全国で観光振興によるまちおこしに注目が集まっている。荒川区でもより一層、観光振興を進めるべきだ。これまでの観光施策の成果等を検証し、その上で新たな方向性を検討する必要があると考えるがどうか。

答 東京オリンピック・パラリンピック開催は、荒川区の観光振興にとっても大きなチャンスである。より一層、観光振興への取り組みの拡大を図っていく観点からも、これまで積み上げてきた事業の成果を踏まえ、今後の新たな方向性を打ち出していく。

問 区には様々な花の名所があり、観光資源として価値あるものとなっている。今後の公園整備の際には、防災機能だけでなく植栽する樹木に特色を持たせることや健康づくりに寄与する施設を設置することなどの工夫で、公園の魅力を高め、多くの人が訪れたくなるようにすべきと考えるがどうか。

答 公園の整備に当たっては、防災機能に加え、その広さを生かし、豊富で特徴的な花や緑を配置するとともに、区民の健康増進に寄与する運動施設等の設置についても地域の意見を踏まえ検討し、魅力ある公園づくりを進めていく。

問 ドナウ通りのツツジや都電沿線のバラ、今後整備予定の公園も含めて、訪れた方が楽しめるような、花の名所を巡るルート等を整備してはどうか。

答 まちあるきの中で、「緑・花大賞」受賞作等の花の名所等を織り交ぜて案内する方法等が考えられる。関係部署と連携し、区内を回遊するルートを作り、マップなどで分かりやすく紹介していく。

その他の質問項目

○区としての成長戦略について
○地域力の活用について

荒川区の乳幼児保育・教育の充実と医療介護総合促進法における第6期高齢者プラン作成を問う

安部キヨ子（共産党）

荒川区の乳幼児保育・教育の充実を問う

問 保育園増設等が行われてきたが、さらに尾久・日暮里地域等では対策が必要だ。認可保育園等を整備し待機児解消すること。定員弾力化は見直し、ゆとりの回復と保育の安全・安心を確保すること。

答 認可保育園の新設等、保育利用定員の拡大に努めてきた。引き続き地域ごとの需要に対応した保育施設整備を推進する。定員弾力化については、適切に対応する。

問 子ども・子育て支援新制度に当たり、認定こども園化に誘導しないこと。また、現行保育・教育水準を確保し、最低基準の引き上げに努めるとともに、区独自の保育料軽減は継続すること。

答 認定こども園への移行は、各事業者の意思を尊重する。区独自の保育料軽減は継続の予定である。

問 学童クラブと放課後全児童対策については、それぞれの役割を形骸化せず、充実を図ること。また、学童クラブの朝夕開所時間の延長を行うこと。

答 全ての子どもに様々な時間を過ごす場所を提供するため、放課後子どもプラン全校実施と学童クラブとの一体的運営を進める。学童クラブ時間延長は調査研究する。

医療介護総合推進法における第6期高齢者プラン作成を問う

問 特別養護老人ホームの入所制限と介護療養型医療施設の廃止に伴い、入所者の生活と介護が大変になる。区はどう対応するのか。

答 特別養護老人ホームは、国の法改正の趣旨を踏まえ適切に対応する。介護療養型医療施設は、国の動向を踏まえ適切に対応する。

問 グループホームや小規模多機能型居宅介護は、利用補助はあっても負担が重い。多様な施設での補助制度の拡充を行ってほしい。

答 これまで一定所得水準以下の方に対して独自の助成を行ってきたが、介護保険制度の見直しの動きや財政需要も増えていく中、独自助成を拡大する考えはない。

問 国は小規模デイサービス事業所の改編をしようとしている。区として小規模事業所を応援してほしいが、今後の対応を問う。

答 小規模型通所介護事業所の見直し案は、利用者にとってもプラスになると認識しており、趣旨を踏まえ適切に対応していく。

その他の質問項目

○解釈改憲による集団的自衛権行使容認について
○区内産業の持続的発展と活性化に関して
○荒川二丁目複合施設建設の計画凍結と内容等の見直しについて
○糖尿病予防のための健診の年齢拡大や原因分析等について
○ボルダリングをあらかわ遊園スポーツハウス等に設置すること

胃がん予防対策と子育て支援を問う

吉田詠子（公明党）

胃がん予防対策を問う

問 近年、胃がんの原因のほとんどがピロリ菌だとわかってきており、ピロリ菌の検査方法としてＡＢＣ検診がある。ＡＢＣ検診の導入により、胃がんの罹患率減少等が期待でき、治療費の削減にも貢献すると思うが見解を問う。

答 区は、胃がん検診としては、死亡率減少効果が明確な、エックス線検診を引き続き実施するが、ピロリ菌検査の実施は、予防策として検討を進めていく。

問 ピロリ菌検診は現在都内８区で実施しており、墨田区では無料で受診できる。荒川区もがん検診同様、「ピロリ菌検診無料クーポン券」を発行し、受診しやすい検診を提供すべきと考えるがどうか。

答 無料クーポン券の発行については、他区の実施状況なども参考にしながら、検討する。

子育て支援を問う

問 児童相談所の都から区への移管に期待するが、移管の合意から４年間の準備期間を要するとされている。現在の子ども家庭支援センターと児童相談所の役割分担はどうなっていて、連携に当たってどのような課題があるのか。次に、児童虐待の予防策として、保護者が安心して子育てできるような支援を行う必要がある。子育て交流サロンの開設に加え、研修を受けたボランティアが家庭を訪問し、保護者の悩みを聞く等の取り組みを実施してはどうか。さらに、区は、居所不明児童については、どのように対処しているのか。

答 都区間の連携には、一定の改善が見られているが、児童の状況により、担当機関が変わるなど、児童、保護者の立場に立った相談体制になっていない。同じ地域に２つの機関が存在する弊害が生じていると考え、児童虐待防止に効果的に取り組むには、住民に最も身近な区で行うべきと確信している。また、子育て交流サロン開設に向け、今後とも取り組むとともに、支援のスキルを身に付けたボランティアの育成や実施方法などを検討する。居所不明児童への対応については、警察や児童相談所と連携の強化を図っていく。

問 近年の猛暑に対する熱中症対策として、水を霧状にして噴射するミストシャワーの導入を提案する。特に体温調節機能が未熟な乳幼児が入所し、夏休みのない保育園から設置してはどうか。

答 ミストシャワーは、熱中症対策として効果が期待できると認識しており、保育園での導入について検討する。

その他の質問項目

○スポーツを通した活力ある区の取り組みについて
○サンパール通り（補助90号線）の街づくりについて